なな山だより 49 号

2020 年 5 月 10 日　なな山緑地の会発行

なな山緑地　草本分布　キンラン

石井栄美子

きっかけは、グリーンボランティア森林会のキンランとタマノカンアオイのモニタリング調査でした。2019 年春、中原さんから引き継いだ調査活動。3 月シュンランが顔を出し、オオイヌノフグリの青い花が春を告げると、次々と草花が咲き誇りなな山が一番輝く季節を迎えます。キンランの調査区域は、西の尾根の斜面地で 2017 年黄色のテーピングエリアに、22 株印つけ。2018 年は 4 株増え、26 株に。2019 年は更に増え、31 株確認できました。ここでふと、なな山全体で何株位のキンランがあるのだろうと。山が金蘭色に染まる風景を思い浮かべ地図を作成し、花を見つけた場所に落としていくことに。調査日は、4 月 28 日活動日。植物観察時に大勢の目で緑地内を見て廻ると、あそこにも、ここにも！と大騒ぎになる程の量。事前に相田さんにこの話をしたところ、2005 年に調査した資料があり、比較することができました。当時は、キンラン 23 株の記録が残されています。今回はなんと、131 株。西の山限定ですが、元々の分布エリアに加え、陽あたりの良い山頂付近に多数確認でき、広がっていることに気づきました。

キンランは、低山や丘陵の広葉樹林内に生える多年草で地上性のラン。絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。高さは 30 ㎝～70 ㎝。花は黄色で半開し 3～12 個。モニタリング調査では 50 ㎝前後が多く、花を 10 個以上付ける株も多く見られます。昔はどこにでもあったそうですが、近年、下草刈りをしなくなったこと、盗掘などにより個体数が減少。そう考えると、なな山緑地は良く手入れされ、健全に育つ環境が保たれていることになります。ちなみに、他に類をみないサイハイランは、2005 年 19 株とあり、今回の調査では 136 株と大幅に増加。西の谷の群落は、陽あたりの変化により、元気を無くしていますが、他の場所で着実に増えています。希少種の花をいつまでも見ることができるように、大切に守っていきたいものです。

環境の変化は今後、地球温暖化などの影響を大きく受けそうです。月 2 回の活動が、豊かな植生がずっと続く手助けとなりますように。

なな山緑地自然観察会

日にち：２月５日（水）

２年越しで進められていた計画が実り、長池公園副園長の小林健人さんを迎えての観察会が実現することになりました。当日は穏やかな冬晴れに恵まれ、10 時には会長の高木さんも加わり、10 名で小林さんから多摩の緑地の概要の説明を受けました。

西の谷ではエナガの一群にシジュウカラが加わりコゲラも続くといったパターンの解説。中の山では「アオゲラがいますよ」小林さんの声にコナラの高い梢でしきりにつついている様子をじっくり観察できました。中の谷では東京都レッドリスト（絶滅の危険度が高い動植物名を掲載）に入っているトウゴクシダを観察。シダは根、茎、幹はすべて地中、地上部は葉とのこと。午後もシダ類の、コバノイシカグマ、ギフベニシダ、ナンゴクナライシダ、ハシゴシダ、アスカイノデと数々の希少種の出現に驚くばかりでした。

観察会は午後３時に終了。短い時間に冬枯れのなな山の植物をほとんどリストアップして下さった小林さんにはぜひ、また来ていただきたいと思いました。なな山は周辺の緑地や公園を結ぶ「緑の回廊」の中の大切な存在、里山の保全活動の重要性を再認識した日でした。（水倉）

ボランタリーフォーラムメンバーなな山で活動

日にち：　２月８日（土）

１０時半、ボランタリーフォーラムのメンバー他１４名が到着。この組織は様々な社会問題について市民ができること考えるという趣旨でイベントを開催しています。今回は雑木林の保全を取り上げ、なな山をフィールドとして体験するという企画です。なな山のメンバー7 名で対応しました。まず、なな山の成り立ち由来を説明し、西の山を案内しました。もともと雑木林に興味のある方々なので説明を熱心に聞き、質問もいろいろ出ました。なな山の活動は保全だけでなく、児童生徒の自然学習への取り組み、山から出る材で作った「めかい」やヒンメリ、木工、植物標本などに興味を示していました。その後全員で落ち葉掃きの体験、熱心に取り組み昼食を済ませて解散しました。雑木林の保全の大切さを理解していただくために有意義なイベントでした。（鎌田）

高所作業の講習会

日にち：２月 11 日（火）

GLC で開催、なな山から 4 名が参加しました。教室で高所作業の注意事項や転落防止用具などの座学あり、転落防止用具のシットハーネスの装着を実習。最初は手順に手間取りましたがその後近くの林の中で現場実習訓練があり、われわれなな山グループも現場でシットハーネスを装着し現場実習を体験しました。現場でのシットハーネスの装着は慣れてきたためかスムースにできました。

その後教室に戻り、「ロープ掛け継手の作成」の指導を受けました。3mまで伸びるアルミポールのロープ掛け継手でこれを使えば３ｍの高さの枝に容易にロープ掛けることができます。ポールとロープ掛けの材料を受け取り組み立ててなな山の倉庫に収納しました。（宮﨑）

南鶴牧小学校自然観察会

日にち：２月１５日（土）

当日は晴れて暖かな一日でした。１０時に福田副校長と児童４名保護者３名計８名がバスで到着しました。なな山のメンバー４名が出迎えました。一時途絶えていた自然観察会は昨年１２月に再開され、今後は季節ごとに開催して自然の変化を観察する計画です。今回は冬の里山の様子を見に来ました。春になったらまたその季節のなな山を見に来てくれる計画です。

落葉を踏んで観察を開始。花は見られませんが、木の芽や実などを観察しながら西の谷、西の山を案内しました。中の山東の山も短い時間ですが、西の山と比較しながら見てもらいました。子供たちは喜んで走り回ったり、聞いたことをメモしたりしていました。お昼になったので広場のテーブルでお弁当を食べて解散しました。参加人数がやや少なかったのは残念ですが、継続していれば徐々に増えてくることを期待したいと思います。（鎌田）

なな山緑地へ　卒園散歩！！

日にち：３月６日（金）

「ななやまりょくちってどこかな？」「おふろの王様のちかくみたいだよ」「たーくさんあるくんだって」などなど子どもたちは朝からおしゃべりに花が咲いています。保育園を９時に出発！30 分ほど歩いて到着。

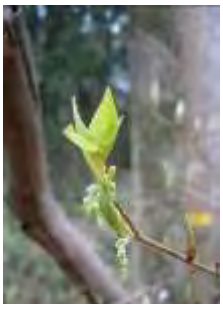
みなさんが「おはようございます。」と笑顔で迎えて下さいました。子どもたちもにっこり。山の約束を聞いてから、さぁ森の中へ歩き出します。「本当の山だね」なんて言葉も聞こえてきます。木の階段を登り切り、開けた景色にうわぁぁ♪と、圧倒される子どもたち。段ボールすべりに、そりすべりもさせてもらって、迫力満点！！うぉぉ、こわ～い！すご～い！はや～い！と大喜び。そりを引きづって、山の上までよしょよいしょ。ちゃんと歩いて戻します。立派です。落ち葉の山にダイビング～。ぴょんぴょん跳ねて、落葉のトランポリン。落葉の中にうもれてみたり。落葉でた～くさんあそんだよ。そして、出発。もうひと山こえようと、笹林の中を歩いたね。登って下って、林の中に入って、「あっ、あそこの色が変わったよ」「鳥の声だね」「おおきなきのこだ！しいたけだってよ」などなど、自然をたくさん感じられた半日でした。おみやげにビュンビュンごまの材料をいただきました。さくらの木やコナラの木が材料のビュンビュンごま。木のとってもいい香りです。保育園で色を付けて作りました。まさに、ビュンビュン回る、ビュンビュンごま。子どもたちは夢中でやってます！

本当にありがとうございました。また、ぜひ、遊びに行きたいです。（桜ケ丘第一保育園）

なな山植物誌

ヤマコウバシ　山香し　クスノキ科

なな山の中の谷入口右側にヤマコウバシの木があります。クスノキ科ですから葉をちぎると良い香りがします。また春まで葉を落とさないので、冬の雑木林ではよく目立つという特徴があります。３月末、暖かさが感じられる頃、ヤマコウバシは葉の展開とともに黄緑色の小さな花を咲かせ、５月頃になると実が黒く熟します。ところがヤマコウバシは雌雄異株で、雄株は日本にはないとのことです。なな山のこの木はもちろん雌株ですが、花が終わると結実します。花に袋をかけたり、メシベを取り除いたりして雌株に花粉がつかない状態にして実験した結果、単為生殖であることが判ったとのことです。要するに受粉をしないで、子孫を残すのです。動物ではよくあることのようです（アリ、ミツバチ）が、植物ではセイヨウタンポポやドクダミが単為生殖とのことです。



ヤマコウバシの花

ヤマコウバシの実

進化の過程で獲得した独特の生き方をする植物ですから、大切にしましょう。（中原）

なな山日記（活動・観察記録）

No. 380　2020年　1月　12日（日）　晴れ　気温　11℃
参加者　23人
令和２年、最初の活動日。山初めの神事を行い、活動の安全祈願を行った。

● 作業/西の山刈払い、排水路の土留め工事、粗朶置場の整理、チェーンソー・刈払い機の整備。

No. 381　2020年　2月　2日（日）　晴れ　気温　14℃
参加者　22　人
中の谷で女性陣による手鋸による間伐を行った。

● 作業/中の谷の間伐・中の谷へ降りる遊歩道作り、運搬機が中の山に入る道路作り等。
● 観察/ウメ（紅梅）カワヅサクラ。

No. 382　2020年　2月　9日（日）　晴れ　気温　9℃
参加者　18人
キノコ用にコナラとヤマザクラで榾木を作った。

● 作業/シイタケとナメコの榾木の準備、クヌギの苗の掘り起こし、中の谷の刈払い、ダイコンの種まき等。
● 観察/ウメ（白梅）オオイヌノフグリ。

No. 383　2020年　2月23日（日）　晴れ　気温　19℃
参加者　18人
西の谷の途中と奥から西の山に登る遊歩道を新たに開いた。

● 作業/西の谷の刈払い・新しい遊歩道作り、東の山道の刈払い、シイタケ榾木の準備。
● 観察/カワヅサクラ。

No. 384　2020年　3月15日（日）　晴れ　気温　11℃
参加者　17人
傷を付けない木の皮むき方法を伝授してもらった。

● 作業/シイタケ菌打ちの準備で本伏せ場所の整備・横木・交差支柱の準備、ダイコンの種まき。
● 観察/シュンラン、モミジイチゴ。

No. 385　2020年　3月22日（日）　晴れ　気温　22℃
参加者　20人　サイハイランの群生地に日陰を作るため、ヒイラギナンテンを移植した。

● 作業/シイタケ菌・ナメコ菌の駒打ち、サイハイランの日陰作り、中の山の雑木整理等。
● 観察/ヒゴスミレ、カントウタンポポ、ヤマザクラ、ヤブレガサ。

編集後記

「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」唐時代の詩の一節です。会が始まってから１８年間毎年この季節、なな山は花に覆われ、その中で活動してきました。しかし今年はそれができませんでした。誠に残念です。でも、皆さん！もう少しの辛抱です。コロナ明けにはまた、なな山でお会いして楽しく活動いたしましょう。Ｋ

なな山だより　第49号　2020年　5月10日発行

発　　行　なな山緑地の会
発行責任者　髙木直樹
住　　所　多摩市和田 1394-13
ホームページ　https://nanayamaryokuti.jimdofree.com/
編集委員　鎌田文雄　飯田歩